

学ぶ

by 学生スタッフ

裏オープンキャンパス

隠れた名物発見!

長引く新型コロナウイルス禍で、大学のキャンパスにふらりと足を踏み入れにくい状況が続いている。そこで、学生スタッフが読者に代わって現地を調査。各大学にあるちょっと珍しい物や場所取材し、知られざる魅力を発掘してきた。名付けて「裏オープンキャンパス」。大学の中って、いろいろあるんですね。

ロタンダ 中部大

謎の「映えスポット」



愛知県春日井市の丘に立つ中部大。図書館前の芝生広場に、高さ六げほどの洋風あずまやといった雰囲気な物体がたまたま。「ロタンダ」。上部がドーム状をした円形の建物だ。「映えスポット」として卒業時の写真撮影でも人気だが「何なのか知らない学生も多いでしょうね」と、

ロタンダについての取材に答える塩沢さん(左)=愛知県春日井市の中部大で

塩沢正・国際センター長。一九九四年、開学三十年を記念して交流を続ける米国のハイオクが贈った。二百年超の歴史を誇る同大本部棟のキューポラを再現。ただし、本家と違って壁は設けず、ドームを八本の円柱が支えている。同大に留学した中部大生は「小学校を訪れるなど現地に溶け込む」と聞き、学生スタッフは「深い交流の象徴がロタンダなのかも」。来年は交流五十周年。大学側は新たな象徴を造ることを検討中だ。

天文台に神殿、救急車…

ちょっと珍しい物はまだまだある。大学は多様だ。愛知教育大(愛知県刈谷市)は、研究・教育用の天文台を持ち、一般向けの天体観望会も開かれている。カトリック系の南山大(名古屋市昭和区)のロゴセンターにはチャペルがあり、結婚式を挙げられる。

皇学館大(三重県伊勢市)は神道系とあって、祭式教室や神殿がある。救急救命学専攻を持つ愛知淑徳大長久手キャンパス(愛知県長久手市)には、本物の救急車がある。名古屋学芸大(愛知県日進市)の大学歌「愛と知と」は、著名なコピーライターと作曲家が手掛けた。独特な言語感覚と壮大な

八高古墳 名古屋市立大の滝子キャンパス(名古屋瑞穂区)に生い茂る樹木。森にしか見えないが実は古墳なのだ。日本古代史が専門の吉田一彦特任教授によると、古墳時代前期末(四世紀後半)に築造された前方後円墳。特徴的な埴輪の破片が出土しており、当時の地域を治めていた王の墓だとみられる。本来の長さは七十げだが、戦後になっ



八高古墳を現地解説する吉田さん(右)=名古屋瑞穂区の名古屋市立大で

て前方部分に食堂棟が建てられた。構内の大学史資料館には、出土品や関連資料が展示されている。名称は、かつてこの地にあった旧制第八高等学校にちなむ。旧制八高は戦後に名古屋大となり、名古屋市と土地、建物を交換して市立大のキャンパスに転じた。周囲にはベンチが置かれ、学生らの憩いの場に。時を超えて人々の営みを見守る古墳。吉田さんは「地域の歴史文化に関心を持ち、大学の歴史を知ってほしい」と話す。

八高古墳

名市大 王が見守る学生生活



名古屋大中央図書館(名古屋千種区)の入り口脇に、A4判のノートが置か

つぶやきノート

名大 誰でも、何でも書きたい「つぶやきノート」だ。「卒論しんどい」「彼氏欲しい」。書き込みは原則匿名。勉強や就職、学生生活の話題が目立つ。時には「死にたい」「大学辞めたい」などメンタル面の不調や不安の訴えもある。同大の学生支援活動「ピア・サポート」の一環。その場限りで気ままに使える

匿名で思いをつづる

からこそ、対面で相談しにくいことも打ち明けやすくなるという。二〇二一年度に設置し、昨年度の書き込みは百七十八件。有志の学生サポーター約十人が全て返事を書く。サポーターで大学院教育発達科学研究科二年の中村和音さんは「悩みやつらいつい思いを吐き出し、表現できる場所であってほしい」と願う。

取材や記事執筆に関わった学生スタッフ 安藤詩織、井上きらら、岩佐一秀、江尻大雅、尾崎智隆、亀山祥華、川瀬七望、久保友悟、境野鈴夏、竹内魁伸、谷高彩音、山本健人

「アバター卒業式」も